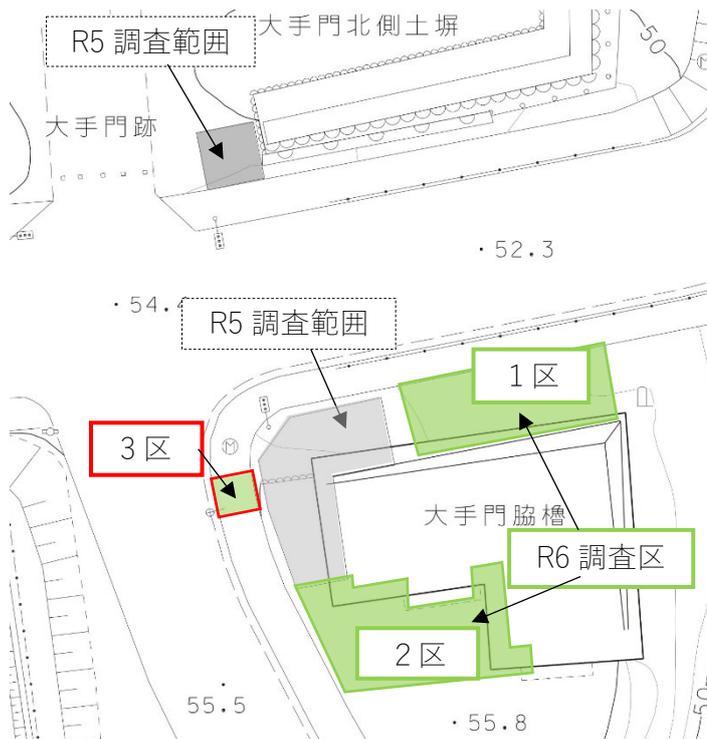


(1) 仙台北城跡整備事業について

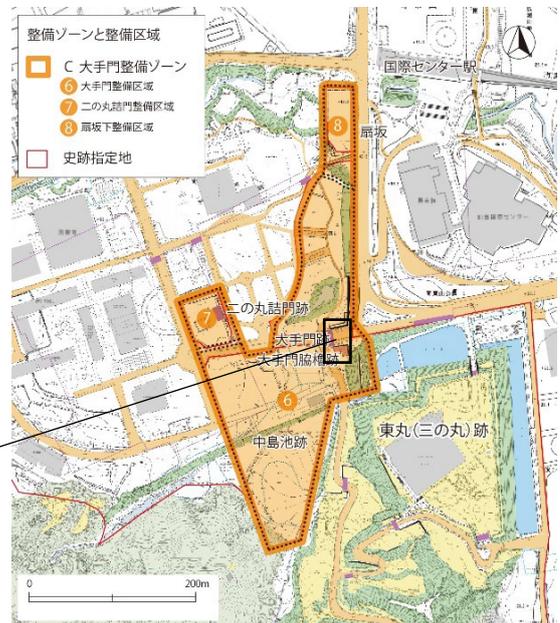
令和6年度大手門発掘調査の成果

1. 調査の概要

仙台北城跡大手門跡および周辺発掘調査（第2次）	
目的	<p>『史跡仙台北城跡整備基本計画』（以下、「整備基本計画」）に基づいて、大手門周辺の遺構の残存状況を確認するための遺構確認調査を実施する。</p> <p>1区：令和5年度調査区の東側、大手門脇櫓（再建）の北側に位置する。令和5年度検出された埋設管の設置等に伴う削平が及ぶ範囲を確認する。また、戦後の削平・整地と大手門脇櫓石垣の時期関係を確認する。</p> <p>2区：令和5年度調査区の南側、大手門脇櫓（再建）の南側に位置する。令和5年度検出された石組側溝の延長を確認する。また、大手門・大手門脇櫓周辺の関連施設の有無とその残存状況を確認する。</p> <p>3区：昨年度検出された大手門礎石跡の延長線上に想定される、大手門南西角の柱の痕跡の残存状況を確認する。</p>
予定期間	令和6年6月17日～令和6年9月30日（野外調査）
対象面積	154 m ² （内訳 1区：70 m ² 、2区：84 m ² ） 6.25 m ² （3区 追加調査）
調査成果	<ul style="list-style-type: none"> 大手門と大手門脇櫓に伴う石組側溝が確認され、令和5年度調査で検出された側溝の延長部分と考えられる。 石組側溝は戦後の掘削によって壊されている部分があり、脇櫓南側では側溝石材の抜き取りが行われている可能性が考えられる。



調査区配置図 (1/500)



追加調査区周辺の現況

2. 2区の調査成果(1)

<基本層序> (写真1, 第2図矢印箇所)

I-1層: 現表土

I-2層: 現代の整地層(戦後)。瓦等の遺物が出土し、部分的に瓦が密集している箇所が認められた(写真2,3)。花崗岩の破片が混入しており、昭和8年の馬碑設置に伴い、花崗岩を加工した際のものと考えられる。南側では玉石を含む範囲が確認され、旧道路に伴う砂利が表面に含まれているものと考えられる。

II層: 大手門・大手門脇櫓焼失前の地表面(明治の修復に伴う整地層)。南西側では表面に玉石が含まれる。この面で脇櫓に沿って焼土を含む範囲が確認された。(写真4,5)

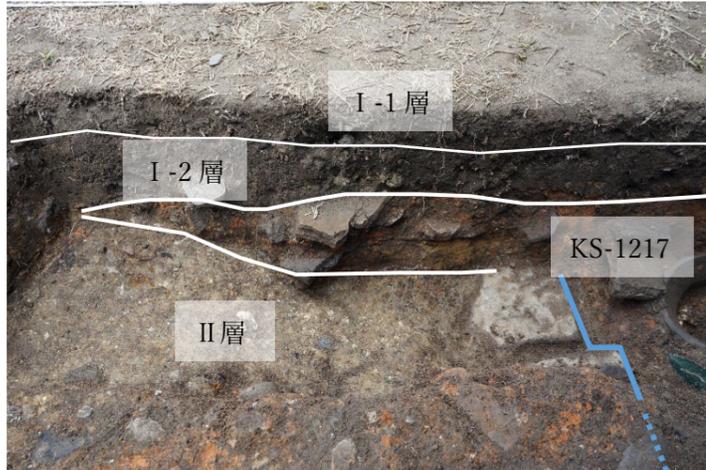


写真1 南北ベルト基本層序(東から)

I-1層: 現表土

I-2層: 現代の整地層(戦後)

II層: 大手門・大手門脇櫓焼失前の地表面(明治の修復に伴う整地層)

KS-1217 石組側溝の堆積土:

大手門・大手門脇櫓焼失前の地表面(明治の修復に伴う整地層)
焼失後の整地により石組側溝の内部と周辺に瓦、壁材、コンクリート・モルタル片が流入する



写真2 I-2層中検出状況(北東から)



写真3 I-2層中遺物検出状況(北から)(写真2青枠線部分)

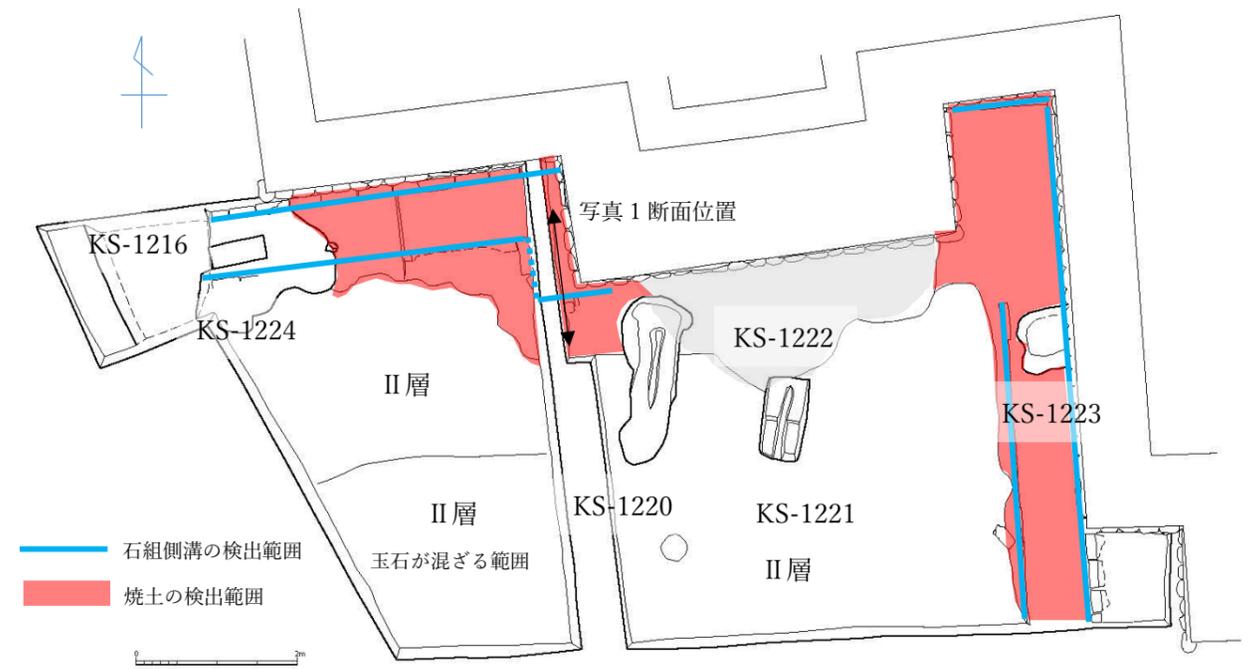


写真4 II層上面遺構検出状況(南西から)



写真5 II層上面遺構検出状況(北西から)

<検出された遺構>



第2図 2区平面模式図(S=1/80)

<大手門・大手門脇櫓に伴う施設>

KS-1217 石組側溝(R5調査区からの延長を確認)

<大手門焼失後の遺構>

KS-1222 石材の抜き取りに伴う掘削

KS-1220 溝状の落ち込み。KS-1222を切る。

KS-1221 溝状の落ち込み(KS-1220と一对の轍跡の可能性)

KS-1223 土坑状の掘り込み

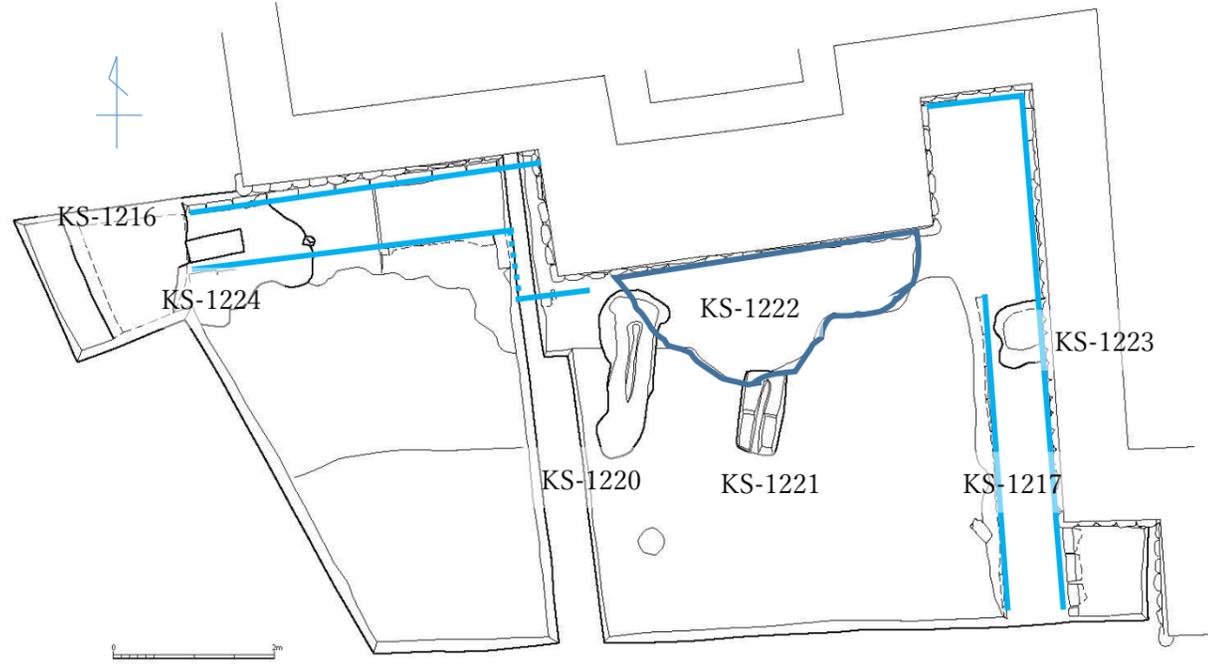
KS-1224 土坑状の掘り込み(レンガを多量に含む)

KS-1216 溝状の掘削(R5調査区からの延長を確認)。KS-1224を切る。

○推測される主な変遷

- ① II層が地表面となり、KS-1217石組側溝が作られ、機能していた。(明治23年の修復以降)
- ② 昭和20年仙台空襲により、大手門・大手門脇櫓が焼失し、焼土や瓦などが石組側溝(KS-1217)に入る。
- ③ 焼失後に整地が行われ、瓦・壁材、焼土、コンクリート・モルタル片、レンガ等が、石組側溝内に流入する。
- ④ 石組側溝の一部が抜き取られる(KS-1222)。脇櫓の再建に伴うものか。溝状の掘削(KS-1216)によって、西側の側溝が攪乱を受ける。

3. 2区の調査成果(2)



第3図 2区平面模式図 (S=1/80)

土坑状の掘り込み KS-1224 (写真 6, 7)

KS-1217の堆積土を切っている。レンガを並べたように埋められている箇所も認められた。KS-1216に切られる。



写真6 KS-1224 断面状況 (北西から)



写真7 KS-1224: レンガの出土状況 (西から)

溝状の掘削 KS-1216 (写真 8)

急角度の溝状の掘削。II層とKS-1224を切っていることから、戦後の掘削であると考えられる。



写真8 KS-1216 検出状況 (南から)

土坑状の掘り込み KS-1223 (写真 9)

KS-1217上の焼土を掘り込んでいる。



写真9 KS-1223 完掘状況 (南から)



写真10 KS-1222 検出状況 (南から)

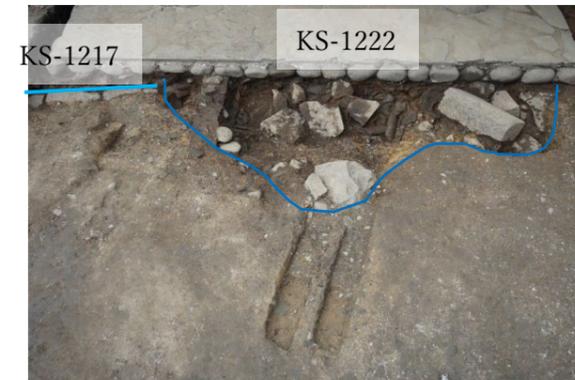


写真11 KS-1222 遺物等出土状況 (南から)



写真12 KS-1222 検出状況 (西から)

石材の抜き取りに伴う掘削 KS-1222 (写真 10~12)

- ・KS-1217の南辺を削り取っている掘削。石組側溝の石材の抜き取りに伴う掘削と考えられる。
- ・堆積土中には石組側溝や石段由来と考えられる石材や、瓦等の遺物が多量に混入している。

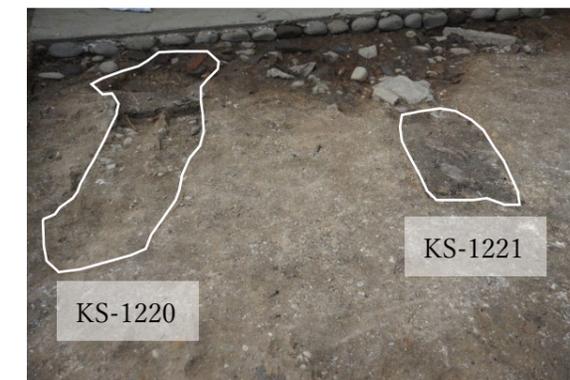


写真13 KS-1220,1221 検出状況 (南から)

溝状の落ち込み KS-1220, KS-1221 (写真 13~15)

- ・焼失後の整地後の攪乱。KS-1222を切る。
- ・平行していることと、どちらも中央に細い高まりがあることから、車両の轍(ダブルタイヤの後輪か)である可能性が考えられる。



写真14 KS-1220 完掘状況 (南から)



写真15 KS-1221 完掘状況 (南から)

4. 2区の調査成果(3)

大手門・大手門脇櫓に伴う石組側溝 KS-1217

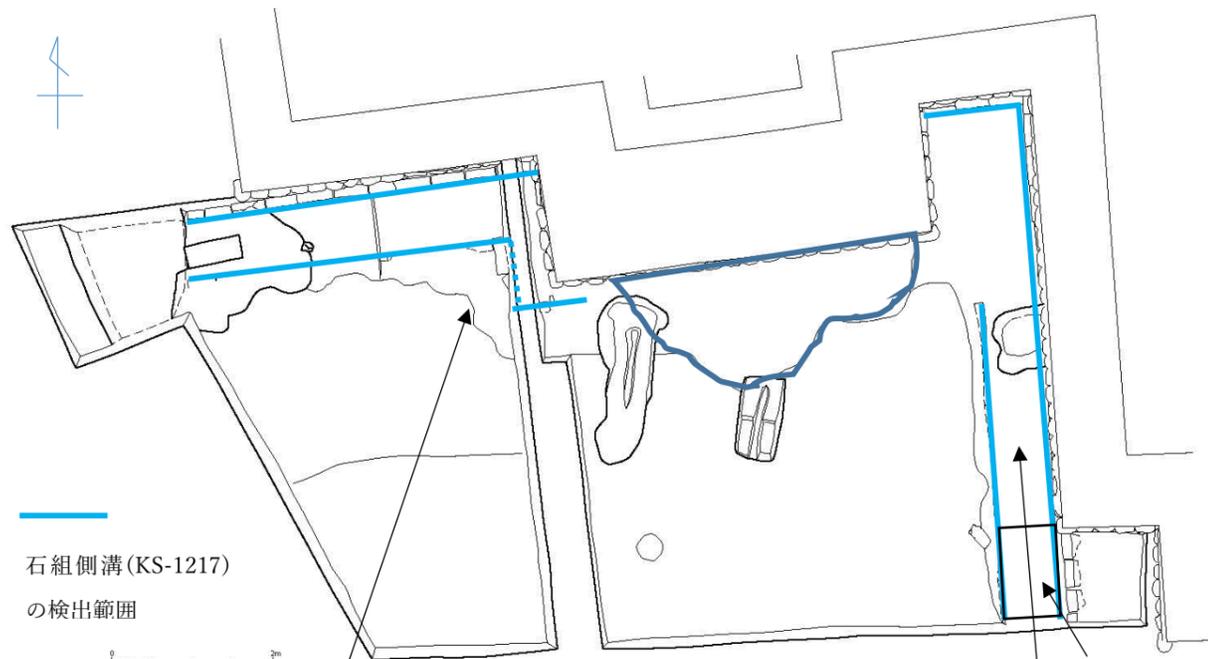
- ・大手門と大手門脇櫓の周辺を巡っていたと考えられる石組側溝。雨落ち溝としての機能が推測される。
- ・大手門脇櫓の犬走りに沿って屈曲している様子が確認された。一部は脇櫓(再建)の下になっている。
- ・南東角で側溝の底面を確認したところ、扁平な丸石が敷き詰められていることが確認された。側石は西面・東面ともに2段に積まれている。
- ・側溝の幅は75~78cmであり、昨年検出の石組側溝と同様である。



写真18 北西角の屈曲(南東から)



写真20 南東サブトレ：石組側溝断面(北から)



石組側溝(KS-1217)の検出範囲

第4図 石組側溝の検出範囲(1/80)

南東サブトレ(溝跡完掘部)の位置



写真19 石組側溝の南辺の攪乱(KS-1222)の状況(南から)



写真21 南東サブトレ：石組側溝西面(東から)



写真16 石組側溝：東西辺の屈曲箇所(南から)



写真17 石組側溝：東側南北辺の状況(南から)



写真23

参考：大手門北側土塀周辺に所在する石材の断面形



写真22 南東サブトレ：石組側溝東面(西から)

5. まとめ

(1) 石組側溝が伸びる方向

- ・昨年度の調査の検出範囲と比較すると、西側の南北方向については昨年検出部の延長線上にあたることを確認された。
- ・脇櫓南側については、再建された犬走の輪郭に沿って屈曲している。側溝の北辺については脇櫓（再建）の下にあり、確認することができなかった。
- ・脇櫓（再建）西側の側溝の南北方向については、脇櫓（再建）の建物方向とはややズレが確認される。脇櫓（再建）南側の石組側溝の東西方向、南北方向については、脇櫓（再建）の建物方向と概ね一致する。この方向の違いの理由については今後の課題である。
- ・検出された範囲全体から石組側溝の輪郭を推測すると、第6図の平面図に類するものになると考えられる。犬走に沿って屈曲し、北東の角でその他の辺よりもやや広がる点でも一致している。
- ・昨年度北西側で、石組側溝の底面の一部を確認した。その際の底面の標高は54.560で、側溝上端から底面までの深さは0.4mであった。今回南東角で底面の一部を確認し、その標高は54.405で、側溝上端から底面までの深さは0.6~0.7mであった。
- ・第6図のように石組側溝の末端が五色沼側の崖にあるとすれば、底面の深さを調整することで五色沼にも排水を行っていたものと推測される。

(2) 大手門・大手門脇櫓周辺の遺構の有無

- ・2区では石組側溝を除くと、大手門焼失後の遺構のみが確認されており、大手門焼失前は写真25のように脇櫓と写真手前の馬碑の間は平地になっていることが窺える。

⇒測量図や古写真の様子と合わせて、大手門脇櫓の周囲を巡る石組側溝の輪郭を推定することができたことで、脇櫓の位置と建物の形を考える上で重要な成果を得られた。



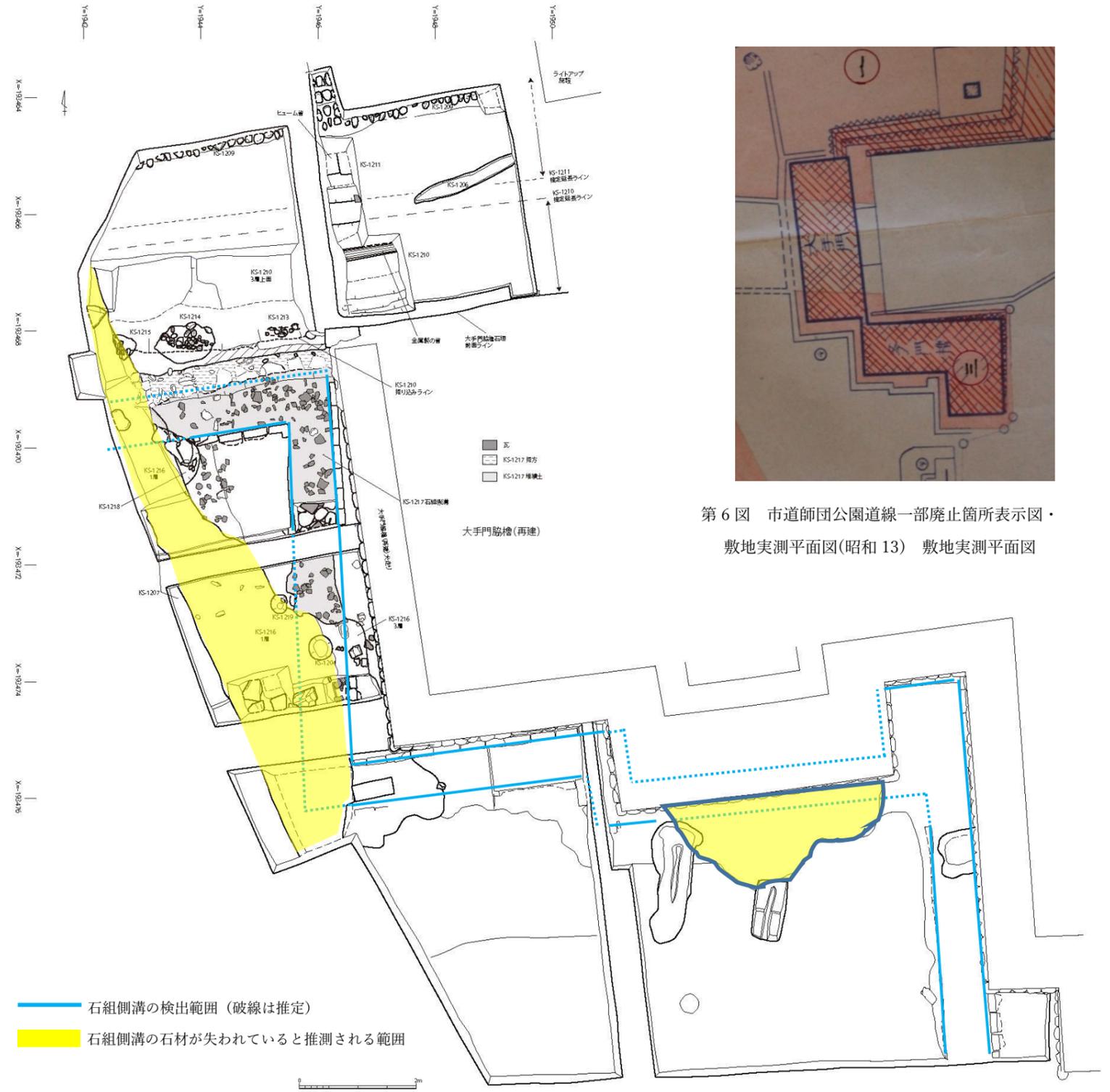
写真24 大手門南面全景

『仙台城』(仙台市教育委員会 1967)

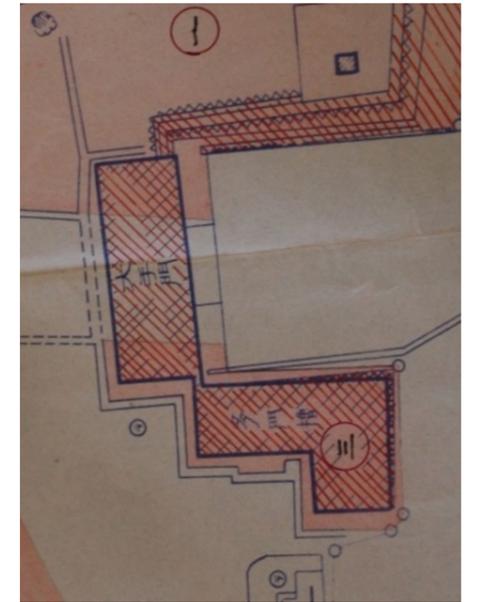


写真25 大手門脇櫓背面

仙台市博物館蔵



第5図 R5・R6 調査合成図(暫定)(1/80)

第6図 市道師団公園道線一部廃止箇所表示図・
敷地実測平面図(昭和13) 敷地実測平面図